

ひなの家押野通信第9号

戦後75年 利用者に戦時中の体験を聞く 勤労奉仕や空襲を体験

8月15日は終戦から75年目。戦争の記憶が薄れる中、戦時中を生き抜いた利用者に戦争のお話をうかがいました。

橋外喜さん(95)

兄2人が戦死

鶴来の農家の8人兄弟の末っ子に生まれました。男6人のうち、4人が兵役に服し、2人が戦死しました。戦時中に結婚し、農家の嫁となり、4人の子どもの育て



2700人が死亡した富山大空襲（富山市HPより）

てました。戦時中、男手が不足し、田んぼなど力仕事に携わり、とても苦勞した思い出があります。

小泉 鶴子さん(95)

空襲に備え訓練

父が軍人でしたが、戦争前にもよめて、津幡町で新聞



ひなの家 押野

野々市市押野1-31
電話076(287)5810

四季を撮る



さわやかな夏の花・アサガオ



野々市市押野の利用者 西村外紀子さん方の玄関先に7月下旬から8月下旬にかけて、アサガオが毎日朝からお昼ごろまで咲いていました。直径10cmほどの青と白が混ざった大輪。咲いてはしほみ咲いてはしほむ。「見る人をさわやかにさせる」と西村さんは大切に育てていました。

配達業を始めました。戦時中、父が病死し、母と私が仕事を引き継ぎ、働きつめました。地域の女子消防隊が結成され、その一員として空襲に備えた訓練に明け暮れました。

内村 雅亮さん(87)

工場で勤勞奉仕

戦時中は石川師範学校予科の学生でした。でも、学校にも行かず、朝6時から

夕方6時まで12時間、金沢の軍需工場、勤勞奉仕に明け暮れました。終戦の8月15日昼に工場で従業員が集められ、ラジオの玉音放送を聞きました。そのときは、よく聞き取れませんでしたが、あとで日本が敗戦したとわかりました。戦争が終わってほっとしたのを覚えています。

放生 繁文さん(85)

地獄の光景

富山市北西部の四方に住んでいました。終戦直前の8月2日未明に米軍爆撃機の大編隊が富山を襲いまし

た。周辺にも焼夷弾が落ちましたが幸い、わが家には落ちませんでした。大空襲では700人が死亡し、市街地のほとんどが燃えました。翌朝、あちこちに散らしていた遺体を小学校の同級生と一緒には通川の河原まで運んで、焼きました。地獄のような光景が今でも目に焼き付いています。

河上 妙子さん(84)

家族の無事を喜ぶ

妻家が富山市中心部の稲荷町にあり、私体が弱かったため、戦時中、隣の立山町の親戚の家に疎開して

ました。8月2日の富山大空襲では、富山市街が真っ赤になって燃えているのを遠くから眺めていました。私の妻家も焼け落ちました。父と長男が翌日、立山町にやってきましたが、母はなかなか来ないので死んだのかと心配しました。でも2日後によろやくやってきました。家族全員無事だとわかり、みんなで喜び合いました。

放生 知榮子さん(80)

焼夷弾の音忘れず

富山市粟島の妻家は、外国人の捕虜収容所の近くにあって、富山大空襲の時、焼夷弾は落とされず、家は助かりました。夜空に「ゴーン」と爆撃機のうなり声が低く響きわたり、「シユル」「シユル」と焼夷弾が落ちる。市街地は火の海になりました。5歳の子どもの心にも爆撃機や焼夷弾の音はとても怖くて、今でも耳から離れません。



真夏に色鮮やか 梅の土用干し

猛暑が続いた8月上旬、ひなの家押野で梅干しの土用干しが行われました。利用者やスタッフが6月にシソと一緒に漬け込んだ約5kgの南高梅を容器から取り出し、大きめに並べました。

梅は3、4日、天日に干すと、味がよくなりまっす。あらためて容器につけておくと秋には食べられるそうです。梅干しづくりのベテランの利用者金岡ちい子さんが作り方



梅干しの土用干しをする利用者

をアドバイザーしました。

なお、金岡さんは8月23日、家族やスタッフの介助で、墓参りを兼ねて故郷の珠洲を訪問した際、この梅干しを近所の人に



珠洲の墓をお参りする金岡さん

おすそわけし、とても喜ばれました。金岡さんは「念願の墓参りができてうれしい」と喜んでいました。

ニューフェイス

小林 愛さん
(こばやし・あい)



【出身】
七尾市(旧田鶴浜町)

【経歴】
10年間 浜次のデザイナーなど介護職として働いていました。

【抱負】
小規模多機能施設のゆつたりとした感じが好きです。腰痛持ちなので、無理をせず好きな介護の仕事を長く続けたいと思います。

【趣味】
ドライブ、旅行。

スタッフ紹介 「元気いっぱい」⑨

介護士 石山 紘さん
いしやま ひろし



頼りにされる存在の石山さん

介護は人と人との関わりが大切

2017年7月のオープン時からひなの家押野で介護士として活躍している。利用者の見守りなどフロア業務のほか、

ホームの畑仕事やアヒルの世話も石山さんならではの仕事。自分の畑で野菜を作っている経験もあり、野菜作りはおてのもの。「利用者の皆さんに新鮮でおいしい野菜を食べてもらいたい」。利用者やスタッフから頼りにされる存在だ。

以前は大型トラックのドライバー。東京、大阪に荷物を運んでいた。引退を決心した矢先、介護の仕事に誘われた。「介護は人と人との関わりが大切。あまり気にしなかった身だしなみをきちんとするようになった」馬をこよなく愛し、競走馬3頭を持つ馬主でもある。

盆踊りを楽しむ

ひなの家押野で8月15日、盆踊り行事がありました。浴衣を着た利用者やスタッフが踊りを楽しみました。



浴衣姿で盆踊り

スパitel初出走

介護士の石山紘さんが所有する競走馬「スパitel」(雌、2歳)が8月18日、金沢競馬で初出走し、3位に入りました。



スパitel (手前)

「ひなの」旅立つ

利用者に愛されているアヒル2羽のうち、「ひなの」(雌、3歳5カ月)が8月3日、天国に旅立ちました。「今まで一緒にいてくれてありがとう。安らかに眠ってください」



◎編集後記
75回目の終戦記念日を迎えました。今のうちに、少しでも戦争の話を残したい。そう思って、利用者、当時の体験を聞き取りました。涙ながらに語ってくれた人。興奮気味に思い出してくれた人。それほど、戦争は悲惨でつらい記憶なのでしょう。それぞれの思いを文字にしました。
(浦上)